

二〇一八年五月二一日

濃緑に浅黄色添ふ神の山
新緑の五彩ふちどる池の四囲
行厨や浜辺の松の樹下涼し
新緑の樹林を抜けてケーブルカー
相会釈してぶらんこの老夫婦

二〇一八年五月一〇日

ケーブルカーカップル席に風香る
神の嶺の伏流水や植田澄む
朝市のおまけ一枰白子干

二〇一八年五月九日

青嵐散居に聳ゆ屋敷林
堰落つる水のしろがね聖五月
本殿へ新樹の礎をのぼりけり
廃線の錆びて卯の花腐しかな
送電線踏んまえ立てる水田かな

二〇一八年五月八日

葱坊主風に頭をぶつけあひ
目瞑りてめまとひの群れ駈け抜けし
夕霞近くて遠き里灯かり

明日香

そうけい

なおこ

やよい

愛正

なおこ

うつき

なつき

やよい

菜々

こすもす

たか子

やよい

敬和

たか子

愛正

二〇一八年五月七日

新緑の山を借景庭散歩

三刀

二〇一八年五月六日

夕暮れのしじまに間遠時鳥
春陰やりハビリに吹くハーモニカ
そら豆を剥きたる後の莢の嵩

三刀

うつき

はく子

二〇一八年五月五日

街路樹の目に青々と夏来たる
蟻走るスケッチブックの筆先に
燕の巣間違へぬかなみな同じ
三世代揃ひて旅の菖蒲湯に

満天

さつき

智恵子

こすもす

毎日句会みのる選・二〇一八年五月一三日